

中学生の「税についての作文」及び、小学生の「税に関する書道・ポスター」の募集事業について

次代を担う中学生及び児童の皆さんに、税を身近に感じ、自分たちと税がどのように関わっているかを正しく理解してもらう趣旨から、国税庁・全国納税貯蓄組合連合会・兵庫県納税貯蓄組合総連合会等が主体となり事業を実施しています。

兵庫県教育委員会賞



北阿万小6年 中野 喬佳

近畿納税貯蓄組合 総連合会会長賞



洲本第二小6年 後藤 彩口

兵庫県納税貯蓄組合 総連合会会長賞



榎列小5年 天野 更咲



広石小6年 廣田 和花奈



浦小6年 長岡 明里

淡路納税貯蓄組合 連合会会長賞



神代小6年 浪花 歩佳

公益社団法人 淡路納税協会会長賞



中田小6年 多田 茉央

✿兵庫県納税貯蓄組合総連合会会長賞

六年 磯口 絢音
税金

洲本第一小6年
磯口 絢音

六年 柏木 陽菜
納税

洲本第三小6年
柏木 陽菜

五年 梶田 灯
納税

鮎原小5年
梶田 灯

五年 除 佳乃子
納税

広石小5年
除 佳乃子

六年 友地 愛鈴
納税

榎列小6年
友地 愛鈴

✿淡路納税貯蓄組合連合会会長賞

六年 渋谷 玲
税金

洲本第一小6年
渋谷 玲

六年 惣田 柊紀
納税

洲本第二小6年
惣田 柊紀

五年 阿部 真子
内税

洲本第三小5年
阿部 真子

五年 喜田 あゆみ
内税

洲本第三小5年
喜田 あゆみ

五年 仁里 碧
納税

洲本第三小5年
仁里 碧

六年 田坂 音羽
納税

洲本第三小6年
田坂 音羽

五年 川上 麗羅
税金

加茂小5年
川上 麗羅

六年 川添 亜季
納税

大野小6年
川添 亜季

六年 平山 彩夏
納税

由良小6年
平山 彩夏

六年 島田 美結
納税

中川原小6年
島田 美結

六年 清水 奏妃
役税の割

都志小6年
清水 奏妃

六年 空野 悠汰
大な税切

都志小6年
空野 悠汰

六年 北田 優羽
納税

広石小6年
北田 優羽

六年 北田 琴羽
納税

広石小6年
北田 琴羽

六年 原田 百桃
税金

堀田小6年
原田 百桃

六年 向原 朱夏
税金

志筑小6年
向原 朱夏

五年 奥井 颯太
納税

生穂小5年
奥井 颯太

六年 小山 美来
納税

学習小6年
小山 美来

公益社団法人
淡路納税協会会長賞

六年 早瀬戸 禮
納税

洲本第三小6年
早瀬戸 禮

六年 安居直歩
納税

洲本第三小6年
安居 直歩

六年 向井ひなた
納税

洲本第三小6年
向井 ひなた

六年 小嶋海音
税金

大野小6年
小嶋 海音

六年 魚崎友里絵
納税

由良小6年
魚崎 友里絵

六年 地主 黛人
納税

塩田小6年
地主 黛人

六年 原田麻捺美
確定申告

中田小6年
原田 麻捺美

六年 山口晴子
納税

松帆小6年
山口 晴子

六年 榎本心美
税金

神代小6年
榎本 心美

六年 難波陽菜
納税

広田小6年
難波 陽菜

五年 片平結愛
納税

北淡小5年
片平 結愛

六年 田中優望
学税の習

多賀小6年
田中 優望

五年 櫻井万祐子
納税

江井小5年
櫻井 万祐子

六年 森瑞希
国税

一宮小6年
森 瑞希

六年 富岡愛咲花
納税

倭文小6年
富岡 愛咲花

六年 長手萌貴
自主納税

松帆小6年
長手 萌貴

六年 進藤彩花
確定申告

松帆小6年
進藤 彩花

湊小5年 船瀬寿葉
納税

湊小5年
船瀬 寿葉

六年 澤内祥希
税金

西淡志知小6年
澤内 祥希

六年 西久保慶人
税

辰美小6年
西久保 慶人

五年 矢野剛士
納税

榎列小5年
矢野 剛士

六年 川原遼矢
納税

八木小6年
川原 遼矢

六年 藤本結子
納税

市小6年
藤本 結子

六年 椿原光琉
国税

神代小6年
椿原 光琉

六年 浪花歩佳
納税

神代小6年
浪花 歩佳

六年 奈木心香
納税

福良小6年
奈木 心香

六年 近藤愛唯
納税

北阿万小6年
近藤 愛唯

六年 高瀬萌衣
納税

阿万小6年
高瀬 萌衣

入賞作品抜粋「あわじ島税の作品カレンダー（29年度版）」を配布します。希望者は淡路納税協会へ。

近畿納税貯蓄組合総連合会会長賞

「税」について

南あわじ市立南淡中学校3年 森 愛葉

私が税と聞いてすぐ思いつくのは税金という「お金」のことです。

大人になって社会に出て働き続けると給料をもらったり自営業でお金を稼いだりするようになりますが、給料をもらう時には税金の分が引かれていたり自分で稼いだ分が全部自分のお金ではなく税金分を払わなければいけなかったり・・・と言うことを聞いたことがあります。

そんな仕組みを初めて知った時は、自分で頑張った分が全部自分のものにならないことが少し納得できませんでした。

でも今の自分の部活に置き換えて考えてみると、良いプレーをしたからと言って自分だけの成果になるわけではなくチームに貢献できたから自分も喜べるということと似ている気がしました。逆に失敗した時にチームのメンバーが助けてくれたことで次は皆に恩返ししようという気持ちになることにも似ていると思いました。

自分だけが良ければそれでいいということではなく働ける人が働いて税金を納め、その税金で弱い立場の人を支えているという仕組みをしっかりと理解しなければいけないと思いました。また、今はまだ仕事をしていない自分も支えられている内の一人だということを忘れないようにしたいです。

ところで最近のテレビのニュースなどで、消費税の増税という言葉をよく聞きます。税金は高くなっても、その分は社会全体でお互いを支え合おうという意味だと思うのですが、同じニュースの中の街のインタビューなどでは「また税金とられる」とか「自分達が払った税金が何に使われているのかわからない」というようなことをよく聞きます。

税金が上がると言うと、ほとんどの人が怒ったり反対しますが、その人たちが税金を払う気が無いとか弱い人を支える気持ちが無いのかと言うと、そうではないと思います。

なぜなら今年の熊本大震災の時には全国からたくさんの義援金が集まったと聞いたからです。

ほとんどの人は誰かを支えるために力になろうとする気持ちを持っていると思うのですが「何に使われているのかわからない」のに給料から自動的に引かれているので「取られた(盗られた)」気分になってしまっているような気がします。

これから私も社会に出れば、社会から支えられながらも税金を払うことで誰かを支えていく立場になります。その時に自分が納めた税金は本当に社会のために使われているのか税金は決まってるから払うだけ・・・になっていないか、などのことに気をつけてこれから勉強していきたいです。

兵庫県納税貯蓄組合総連合会会長賞

安全で豊かな暮らしは税金から

洲本市立洲浜中学校3年 山田 真菜



道徳の授業で発展途上国について学びました。そこで暮らしている子供たちの将来の夢は「大人になるまで生きること」「おなかいっぱいになるまでご飯を食べること」でした。私たちが暮らしている日本では、あたりまえのように実現させることができます。しかし発

展途上国では大人になれないまま亡くなってしまったり、食事を十分にとれない人もたくさんいます。日本で生活していたらこんなことは考えられません。事故や難病にならないかぎり、普通に大人になるまで生きることができます。おなかいっぱいご飯を食べることもできます。病気になっても病院に行くことができるし、学校にだってあたりまえのように通っています。そんな豊かな生活を送れているのはなぜでしょう。それは、税金があるからです。税金は私たちの生活を支え、豊かにしているのです。

私は、税金についてもっと知りたいと思い、どのような税金があって、どのように社会に役立っているのかを調べてみることにしました。すると、税金には、私が思っていたよりもたくさんの種類があって驚きました。税金は私たちの生活の、いろいろなところに深く関わっています。学校や病院、警察、消防などの私たちの生活に欠かすことのできない施設が成り立っているのは、税金によって支えられているからです。もし、税金がなくなってしまうとどうなるのでしょうか。税金がなくなってしまうと、学費や医療費がすべて自己負担になってしまったり、救急車や警察を呼ぶのにもお金がかかってしまいます。これでは、安心して生活を送ることができません。安全で豊かな生活を送るためには、税金は欠かせないのです。

発展途上国と私たちが暮らしている町を見比べてみると、どれだけ税金が私たちの暮らしを支えているかが、よくわかります。外に出て周りを見渡せば道路、信号機、公共施設など、様々なものが税金によって成り立っています。発展途上国の子供たちの夢である「学校に行きたい」ということも、あたりまえのようにできています。病気の治療もできずに亡くなってしまおう人もたくさんいるのとは違って、何かあったときには救急車が駆けつけてくれ、医療費も税金が負担してくれます。なんて豊かで安心して過ごせる国なのでしょう。私は、税金で成り立っている社会に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

私は今まで、こんなにも税金が私たちの暮らしと密接に関わっていると知りませんでした。税金について以前よりも興味を持ったので、税金についてもっと知っていきたいと思います。そして、これからは、この安全で豊かな国を守っていくために、税金を通じて社会の役に立っていききたいです。

*この作文は、納税表彰式典で朗読披露されました。